

140日以上座り込みに阻まれて、那覇防衛施設局は辺野古漁港の資材置き場構築をあきらめ、9月9日からキャンプ・シュワブを基点に海上からの潜水調査などを開始しました。沖縄国際大学での米軍ヘリ墜落事件で普天間基地の即時閉鎖・返還を要求する声が県内に広がり、代替施設建設の早期着工を迫られた小泉政権があわてて決断したためと思われます。

陸上の進入路は座り込みによって阻止していますが、海上は準備が手薄でした。小型船とカヌーを漕ぎ出して命がけの阻止行動を組むという準備はしていましたが、十艇足らずのカヌーと、3～4隻の小型船だけでは那覇防衛施設局の調査作業を完全に食い止めることは困難です。その日以後、施設局側の十数隻の調査船が毎日のように繰り出されており、その調査を阻止するための抗議船と海上でのせめぎ合いが続いています。

9月28日、那覇防衛施設局は「ボーリング調査に伴う51カ所の潜水調査を終わらせた」と発表しました。しかし実際には、海上での粘り強い阻止行動に阻まれて、外洋でわずか3カ所を調査しただけであり、リーフ内での潜水調査はまったくといっていいほど行われていません。この発表には、政府のあせりがありありと透けて見えます。

現地には、調査阻止行動に協力的な漁民もいます。しかし、漁民の生活を考えねばなりませんので、漁船を借り上げる必要があるのですが、そのためには、資金が要ります。1隻1日4万円が相場といわれています。その他に反対協の小型船の毎日の燃料費も2万円必要です。毎日何隻の抗議船を出せるか、何日間続けられるか、それが海上阻止行動を成功させる決め手なのですが、手持ちの資金が乏しいため現地は苦しんでいます。1日2隻100日間で1000万円です。

全国の有志が頑張れば生み出せる金額です。これは「ヘリ基地反対協」が全国に呼びかけるカンパです。100日間で1000万円集めましょう。ここは正念場です。ご協力を心からお願いします。

辺野古への海上基地建設・ボーリング調査を許さない実行委員会

TEL 090—3910—4140 (沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック)

TEL 03—5275—5989 (市民のひろば)

<http://www.jca.apc.org/HHK/NoNewBases/NNBJ.html>

取扱い：